

平成28年度

# 「生徒自身による『スマホ安全利用私たちのルール』づくり」 研究実践報告書



【はじめに】

## 【取組に至った経緯】

スマートフォンの普及に伴い、SNS上での不適切な投稿や他人に対する誹謗中傷などの問題が顕著化している。文部科学省が毎年実施している「問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」の「いじめの態様」においても「パソコンや携帯電話で誹謗中傷や嫌なことをされる」項目の件数は年々増加している。

しかし、ネットいじめを含めたネットトラブルの問題は大人からは見えにくい部分があり、教員による指導や監視だけでは解決が困難であり、子供たちがネットいじめやネットトラブルを自分自身の問題と捉え、課題解決に向けて主体的に関わろうとする態度と自らが課題を解決していく、いわゆる自助・共助の力を養うことが必要である。

県教育委員会は、生徒自身が主体的に話し合い活動を行い、自分たちが守るべきルールを策定する活動をとおして、自助・共助の力を生徒自身が身につける研究を行うこととし、高等学校1校と中学校3校を、平成28年度「生徒自身による『スマホ安全利用私たちのルール』づくり」研究校に指定し、以下の取組を行った。

## 【平成28年度研究委嘱校】

- ・ 県立岩槻北陵高等学校
- ・ 草加市立青柳中学校
- ・ 富士見市立本郷中学校
- ・ ふじみ野市立花の木中学校

## 【平成28年度事業協力団体】

- ・ NPO法人スクールネットワークアドバイザー（ネットの安全利用に関する講演会）

## 【取組概要】

公立中学校3校、県立高等学校1校を研究校に指定し、「生徒自身による『スマホ安全利用私たちのルール』づくり」を実施。

- ① 各研究校で20人から40人の代表生徒を選出し、代表生徒が話し合い活動等をとおして『私たちのルール』の案を作成する。
- ② 作成した案を各クラスに提示するなどして全校生徒から意見を集め、代表生徒がとりまとめて『私たちのルール』を策定する。
- ③ 外部講師によるスマートフォン等の安全利用に関する講演会を実施し、そこで代表生徒が、各学校独自の『私たちのルール』を全校生徒に周知し、遵守を呼びかける。

## 【策定までのスケジュール】

- 4月 研究校募集
- 5月 研究校の指定  
第1回子供のネット問題連絡協議会  
（各研究校の現状や子供を取り巻くネット問題について、専門家等を交えて情報交換）
- 7月～11月 各研究校で代表生徒によるワークショップを開催
- 7月～12月 各研究校で『私たちのルール』策定
- 8月～1月 外部講師による講演会を実施、代表生徒が『私たちのルール』を全校生徒に周知
- 2月 第2回子供のネット問題連絡協議会  
（各研究校の取組についての報告と今後の取組について意見交換）

## 【策定までの基本的な流れ】

※ 研究校の実状に合わせ、実際の取組は多少の変更がある

### 1 代表生徒の選出

代表生徒の人数は20人から40人程度を目安とし、選出方法は、生徒会役員、ホームルーム委員会等、特定のクラス、部活動、希望者など各学校が定める方法とする。

### 2 『私たちのルール』原案作成：代表生徒による話し合い(ワークショップ)

〈ワークショップ参加生徒〉 代表生徒

〈講師〉 NPO法人 スクールネットワークアドバイザー 赤木 聡 氏

〈ワークショップ手順〉

- ① 講師によるスマホの危険性に関する講義
- ② 講師によるワークショップの進め方の説明
- ③ 代表生徒によるブレインストーミング  
4人から6人のグループに分かれ、グループ毎にスマートフォンやインターネットに関する生徒自身の経験や生徒間で問題になっていることを含めた問題点やスマートフォンを利用することの利点について事例を挙げる (KJ法による)
- ④ 問題点や課題の吟味  
ブレインストーミングで挙げられた事例をグループ毎にまとめ、問題点や課題を整理する。
- ⑤ 整理された問題点や課題を受け、代表生徒が『私たちのルール』の原案を作成

### 3 全校生徒による『私たちのルール』の検討

各研究校では、全校生徒が『私たちのルール』づくりに取り組むよう、以下の取組を実施。

- ① 私たちのルール原案に関する全校生徒対象アンケート
- ② 自分たちが考えるスマホの問題点と必要なルールに関する全校生徒対象アンケート
- ③ 生徒総会で代表生徒が原案について説明し、全校生徒からの意見募集
- ④ 代表生徒が各HRで原案について説明し、HRで原案について協議を実施

代表委員は全校生徒からの意見を集約し、各研究校の『私たちのルール』を策定

### 代表生徒による『私たちのルール』の策定

代表委員は全校生徒からの意見を集約し、各研究校の『私たちのルール』を策定

### スマートフォンの安全利用に関する講演会

〈講演テーマ〉「ネットの安全利用について」

〈講師〉 NPO法人 スクールネットワークアドバイザー 赤木 聡 氏

『私たちのルール』策定後、研究校はネットの安全利用に関する生徒の意識啓発のための講演会を実施。

講演会の中で、代表生徒が『私たちのルール』を全校生徒に周知し、遵守を呼びかける。

平成28年度

「生徒自身による『スマホ安全利用私たちのルール』づくり」

研究実践報告書

## 1 学校概要

- (1) 学校名 埼玉県立岩槻北陵高等学校
- (2) 学級数 18
- (3) 生徒数 497
- (4) 教員数 47

## 2 「私たちのルール」策定について

### (1) 策定主体

生徒会本部及び代議員

### (2) 策定について

6月1日(水)全校集会で校長より、全校生徒に拠点校になったことを周知した。

6月8日(水)ワークシートを使用し、各クラスでスマホのルールについてクラス討議を行った。

6月13日(月)各クラスから提出された意見を集約し、代表生徒がとりまとめを行った。

6月16日(木)生徒総会の場でまとめた意見を発表した。

10月12日(水)スクールネットアドバイザー 代表理事 赤木 聡さんによるスマホについてのワークショップを実施した。

11月1日(火)赤木 聡さんによる「スマホ安全利用講演会」を実施した。

11月2日(水)代表生徒による検討会議を実施し、ルールを策定した。

### (3) 全校への周知の方法

12月22日(木)終業式において策定したルールを発表する。

3学期より、教室や掲示板に掲示する。またホームページにも掲載する予定である。

### (4) 策定したルール

<岩槻北陵高校 スマホ安全利用ルール>

- 1 写真など許可を得ずに SNS 等で使わない。(一生削除できません)
- 2 大事なことは、文字ではなく直接話す。(文字に心はありません)
- 3 食事中や、話している時に使わない。(人の目を見て、コミュニケーションを取ろう)

**スマホは悪くない！使う人のモラルが大切です！**

### 3 研修資料



6月8日（水）クラス討議の様子



6月13日（月）代表生徒らの意見集約の様子



10月12日（水）ワークショップでの様子（左）と完成したグループ発表の資料（右）

### 4 研究校独自の取り組み

#### (1) 内容

本校ホームページでの公開。

保護者向け啓発資料の作成（10月～12月） 配布（1月）

### 5 研究の成果と課題

#### (1) 成果

- ・1、2学期をとおして、ワークショップや講演会を実施したので、一人一人がスマホについて深く考えることができ、スマホの安全な利用の仕方、トラブルに合わない方法などを学ぶことができた。
- ・生徒の意見として、「スマホのブルーライトによって、睡眠の質が悪くなることが分かった。」「一度ネットにあがった情報は一生消すことができず、怖いと思った。」「使う人の気持ち一つで、怖い道具になる」「LINE の会話だけで話しが進んでいくのも、良くない」などの声があった。生徒にとっては、普段のスマホの使い方について見直すよい機会となった。

#### (2) 課題

- ・2年に1度のペースを目標とし、生徒や社会の変化に合わせて、定期的にルールを見直すこと。
- ・スマホの危険性や、何が良くて何がいけないのかの理解は深まったが、使う時間の制限などを含めて、そのあとの行動は個人のモラルによるものが大きいので、その点での指導の継続と、生徒が主体となって、ルールを守る取組が行えるようにしたい。

# 平成28年度 「生徒自身による『スマホ安全利用私たちのルール』づくり」 研究実践報告書

## 1 学校の概要

- (1) 学校名 草加市立青柳中学校
- (2) 学級数 (平成28年5月1日付け)
  - 1学年：4学級 2学年：4学級 3学年：5学級 特別支援：1学級
  - 計 14学級
- (3) 生徒数 (同上)
  - 1学年：121人 2学年：159人 3学年：164人 特別支援：4人
  - 計 448人
- (4) 教職員数 (同上) 37人

## 2 「私たちのルール」策定について

- (1) 策定主体 ①生徒指導部 ②生徒会 ③生活委員会

- (2) 策定日時 平成28年7月及び12月

- (3) 全校への周知の方法

- ①全校集会にて、生徒会による発表
- ②校内掲示
- ③生徒会便り・学年便り等への掲載
- ④家庭掲示用通知の配布

- (4) 策定したルール

- ①7月
  - ・社会集団の一人である自覚を持つ
  - ・正しい情報を見極める
  - ・時間を決める

- ②12月

- ・目的：社会集団の一人である自覚を持つ
- ・3つの誓い：「礼を正す」「場を清める」「時を守る」
- ・身につけたい
  - 6つの力：「相手を尊敬する力」  
「正しい情報を見極める力」  
「環境を整える力」  
「状況を判断する力」  
「規則正しい生活を送る力」  
「1日を大切に作る力」
- ・18の約束：「相手の立場・気持ちを考え、よいところを見つけよう」  
「相手が喜ぶ言葉を投げかけよう」  
「『ありがとう』感謝の気持ちを声に出そう」  
「複数の情報を比較して活用しよう」  
「情報は『参考程度のもの』と考えよう」  
「大人に相談して対処しよう」  
「ゲーム・スマホ等は別室に置いて勉強しよう」  
「常に身の周りの整理整頓をし、清掃に取り組もう」  
「お互いを高め合う友人関係をつくろう」  
「冷静に周囲を見て判断しよう」  
「場に応じた言葉遣いをしよう」



- 「約束を守る信念と勇気を持とう」
- 「早寝・早起き・朝ごはんを実行しよう」
- 「ゲーム・スマホ等の使用は22時までにしよう」
- 「8時間の睡眠時間を確保しよう」
- 「時間を決めて行動しよう」
- 「毎日、目標を立てて生活しよう」
- 「1日を振り返る時間を作ろう」

### 3 研修資料

- ・「インターネット関係青柳中学校『私たちのルール』」
- ・「青柳中学校スマホ・ネットなどのルール作り～青中生が決めたルール～」  
(家庭掲示用)

(1) 資料完成日時 平成28年12月

(2) 啓発方法

- ①全校集会にて、生徒会による発表
- ②校内掲示
- ③生徒会便り・学年便り等への掲載
- ④家庭掲示用通知の配布

(3) 資料 ※ 別添資料参照



### 4 研究校独自の取組について

(1) 内容

本校では、いじめ防止・抑止に向けてピアサポート活動を実施し、日々の生活から「生徒自身によるいじめ防止」に向けた活動に取り組んでいる。そうした活動の一環として今回の「生徒自身による『スマホ安全利用私たちのルール』づくり」も実施している。全校生徒へのアンケート調査や集計、意見の集約と検討、掲示物の作成など、生徒が主体となって活動する中から作り上げた。そのため、生徒の「生活を正すことが一番大事」という意見や考え方を重点に置き、「生活を見直す」「規則正しい生活を送る」等の内容を盛り込んだルール作りへと発展していった。

(2) 実施期間 通年

### 4 研究の成果と課題

(1) 成果

- ・生徒のアンケート結果から小学校の時点で約6割、中学校1年生で約9割の生徒が自分専用の携帯、スマホ、iPad、PCを持っている実情を把握できた。
- ・小学校との連携の中で活用の仕方を指導する必要性から、連携を深めることができた。
- ・メールやLINEによるトラブルを抑止する効果があった。

(2) 課題

- ・作成したルールの継続的使用と啓発
- ・情報教育の充実
- ・トラブルや事故防止に向けた、小学校と連携した指導方法の検討と実施
- ・家庭地域との連携

(様式2)

# 平成28度 「生徒自身による『スマホ安全利用私たちのルール』づくり」 研究実践報告書

## 1 学校の概要

- (1) 学校名 富士見市立本郷中学校
- (2) 学級数 13学級
- (3) 生徒数 426名
- (4) 教職員数 26名

## 2 「ネット利用・私たちのルール」策定について

- (1) 策定主体
  - ・生徒会、中央委員、学年委員会
- (2) 策定日時
  - ・7月 実態調査（携帯電話等の利用状況に関する調査を全学級で実施）
  - ・8月 実態調査の集計、分析
  - ・9月 『ネット安全利用私たちのルール作り委員会』の結成、趣旨説明
  - ・10月 実態調査を踏まえ、学級会の内容検討
  - ・10月 学級会で話し合い
  - ・11月 第2回「子供のネット問題連絡協議会」への参加（岩沢）
  - ・11月 講師の指導のもとルール案づくりのためのワークショップ
  - ・11月 学級会での内容、ルール検討
  - ・12月 『ネット利用・私たちのルール』作成
- (3) 全校への周知の方法
  - ・全校集会、掲示物、リーフレットで周知した。
- (4) 策定したルール
  - ・別紙参照

## 3 啓発資料「ネット利用・私たちのルール」

- (1) 資料完成日時
  - ・12月
- (2) 啓発方法
  - ・生徒、保護者参加による講演会を実施した。（12月）
  - ・リーフレットの作成し配付した。
  - ・朝会、修了式等で生徒指導担当が指導した。

## 4 研究の成果と課題

- (1) 成果
  - ・アンケート調査を実施したことで、ネット利用の課題がより明確になった。
  - ・生徒自身でルールを作り、問題に真剣に取り組み、ルールを守ろうとする姿が見られた。
  - ・集会の話や保護者会でも、複数にわたり啓発の機会が得られた。
- (2) 課題
  - ・平成29年度にも継続して啓発活動を行っていく必要がある。
  - ・策定したルールの取り組み具合をチェックさせ、生徒、保護者に根付く指導をする。
  - ・現在、ネット利用の問題は低年齢化してきているため、校区内の小学校でも生徒会を派遣し、啓発活動に取り組んでいく。

# 平成28年度 「生徒自身による『スマホ安全利用私たちのルール』づくり」 研究実践報告書

## 1 学校の概要

- (1) 学校名 ふじみ野市立花の木中学校
- (2) 学級数 12学級
- (3) 生徒数 418名
- (4) 教職員数 33名



**全校シンポジウム**

## 2 「私たちのルール」策定について

- (1) 策定主体 生徒会
- (2) 策定日時 平成29年2月7日（火）
- (3) 全校への周知の方法  
全校シンポジウムにて決定
- (4) 策定したルール

### ① 載せない！！

写真をアップしたり、他人や自分の個人情報絶対に載せないようにしよう

### ② 確認する！！

相手が不快な気持ちにならない内容か、送信前に読み直して確認しよう

### ③ コミュニケーションで絆を深める！！

SNSに頼らず直接的なコミュニケーションを図り、相手に気持ちを伝えることを心がけよう

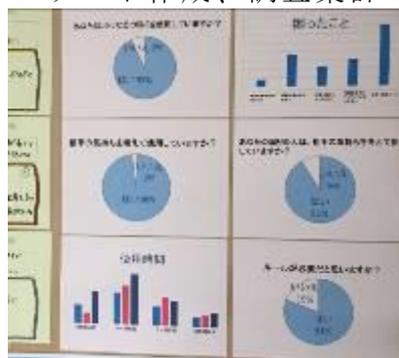
## 3 ルール策定までの流れ

- 9月 「スマホ安全利用法私たちのルール」策定委員会発足
- 11月 第1回策定委員会 代表生徒によるワークショップ型の研修会
- 12月 第2・3回策定委員会 スマホに関するアンケート作成、調査集計  
アンケート調査結果を全校に周知

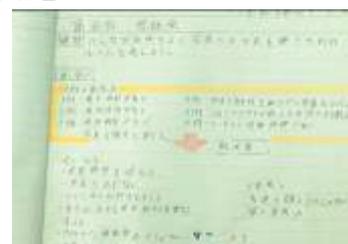
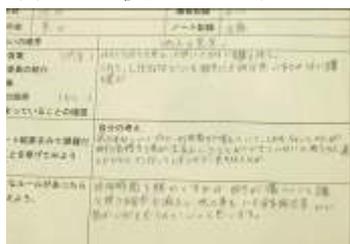


**代表生徒による研修会**

**アンケート結果→**

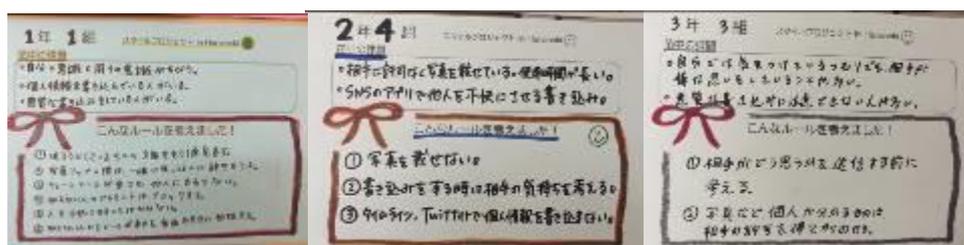


- 1月 第4回策定委員会 「クラスルールについて」話し合う学級会の準備
- 1月 全校で「クラスルールについて」の学級会を実施

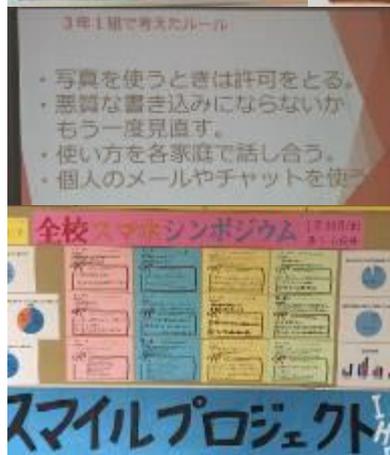


**学級会の様子**

- 1月 スマホシンポジウムの開催 各クラスでまとめた意見や課題を発表  
 2月 「スマホ安全利用～花中3つのルール～」決定



各学年で考えたルール



スマホシンポジウムの様子

#### 4 研究校独自の取組について

本校では昨年度、生徒会を中心に「スマイルプロジェクト in Hananoki～いじめ永遠の0・笑顔いっぱいの花中を目指そう！～」というスローガンの下、特別活動を中心に生徒の自治的活動力を高め、自分たちの力でいじめを生み出さない、いじめや問題が起きても集団の力で解決していける人間関係づくりに取り組んできた。

本年度はこの「スマイルプロジェクト in hananoki」の企画の中の重要な一つとして、生徒自身による『スマホ安全利用私たちのルール』づくりに取り組んだ。

#### 5 研究の成果と課題

##### (1) 成果

- ・学級会での積極的な意見交換によって、スマートフォンの功罪について考えを深めるとともに、様々な考えにふれ、仲間の良い面を知ることができた。
- ・全校の意見を吸い上げ、一人一人の思いを生かした決定を行うことで、学級、学校の一員としての自覚が高まり、自己有用感を育み自尊感情の獲得につながった。
- ・課題を見つけ自治的、自発的な活動を行うことで、自分たちで学級、学校づくりに参画しようとする意識が向上した。
- ・集団の力で課題を解決できる人間関係づくりができた。
- ・生徒のスマートフォンの所持率、使用方法など現状を知ることができた。
- ・生徒自身がインターネットの長所、短所を知ることができた。
- ・学級での話し合い活動、シンポジウムの準備を通して個々の関心が高まった。

##### (2) 課題

- ・小中の連携を深めることで教職員の意識を高め、指導の質の向上を図る。
- ・保護者に対して、インターネット利用の現状と課題への理解を深める。
- ・地域社会と連携することによって生徒一人一人の情報モラルを向上させる。
- ・ネット安全教育、情報モラル教育を年間指導計画に位置づけることが必要。
- ・今回、学級で生徒自身が考えたルールをさらに発展させ、学校全体のルールづくりをしていく。